

# 水俣湾汚泥浚渫監視体制と本協会の活動

平 隆\*

## 1. はじめに

被害の広がりとその悲惨さなどから、前代未聞の大公害事件である水俣病は、患者発見より既に20年を経過した。その間水俣病の原因究明に手間がかかり、つづいて公害病認定、水俣病裁判、損害賠償、漁業補償、患者認定などいくたの経緯と世論の喚起を繰り返し、問題は広がる一方で、何時終えんするか見込みもたたない状況である。その原因については、熊大研究グループによりチッソ水俣工場の有機合成施設より排出されたメチル水銀によるものであることが確認されたが、工場側の発生を防止する適切かつ迅速な措置の実施を怠ったことは強く責められねばならないことである。

しかし、一方原因の根源を除く汚染地域の原状回復の問題も必要緊急な事項であった筈である。幸い昭和49年12月、熊本県公害対策審議会において水俣湾汚泥処理の大綱が諮問され、総事業費 203 億円、工期 7 年を予定し、国内で最大の公害防止事業が決定された。そのうち工事にあたっては、絶体に二次公害を発生させないよう慎重な配慮が必要であり、学識経験者により組織された技術委員会によって「水俣湾堆積汚泥処理に伴う監視基本計画」が作成された。

この監視基本計画に基く監視業務について、その主要業務である採水・分析業務を当協会

が熊本県の指名委託を受けることになって、世紀の公害処理事業の一端を担う重大使命が間もなく開始されることになっている。

既に本年 1 月 20 日より分析、採水要員が現地に派遣され、本番さながらの事前調査を実施中であり、準備はおおむね完了している。

## 2. 監視業務について

現在熊本県は環境庁に公有水面埋立て認可の申請を提出しているが、間もなく認可の運びとなる見込みである。認可によって実質的に工事が開始されることになるが、工事はまず工事水域内に魚介類の出入を防止するために湾口全面に漁網を設置し、次に工事中湾内流を停滞させるため北側湾口部の仮締切りをすることから着手される。監視業務が動きはじめるのは、この仮締切り工事着手からである。漁網設置に 1 ヶ月半余りを要するものと思われ、監視業務の開始は本年 4 月か 5 月からと見込まれる。

監視業務は採水と分析の二部にわけられ、分析部は直接協会の職員の手で行なわれるが、採水部は海上勤務に経験のある下請に委託することになる。しかしいづれも協会の責任と指揮によって行なわれるものである。

業務の内容は、湾口部は 1 日に 3 回、6 地点を採水し、毎回 T-Hg の分析と 1 日 1 回 pH, COD, DO, n-ヘキサンの分析、更に 1 月 1 回 As, Pb などの分析が義務づけられる。また湾内部は 1 日 5 回 9 地点を採水し、主に濁度の測定を実施する。その他地下水監

\* 本協会業務部処理技術課長

視点、外海部の採水・分析も予定されている。採水は毎日工事着手直後より終了直後まで行ない、その日のうちに分析を終了し、翌日の工事の可否を決定する基準を作るものである。もし基準以上の濃度が検出されれば、工事中止の指令がなされることになっている。

### 3. 協会の準備と活動

前述の通り、本年1月水俣の現地には森所長代理(現在所長)を長とし分析部門に協会職員5名、採水部門に下請企業の職員10名が派遣されて当協会の水俣支所として発足し、熊本県水俣湾公害防止事務所の指導の元に事前調査と訓練に入っている。最終的には分析部門6名、採水部門13名の計19名の大世帯となる予定である。

分析室は既に熊本県により新築準備されていて、今回新しく搬入した機器はベックマン水銀分析計1基、理学マーキュリーSP型水銀分析計1基、原子吸光光度計1基、積分球式濁度計2基、分光光度計1基などが主要なものである。

採水関係は採水船中型2隻、小型2隻と採水器などが主要なものであるが、既に採水点標示のための測量と灯浮標の設置は終了している。

業務は採水船が8時半より5時までの間、1日3回各採水点を廻って採水し、分析部門で当日中に分析を終了することである。近く本番同様の基本監視点1日3回、補助監視点1日5回の採水と分析が行なわれることになっている。

何分海深10m以上の採水点が多く、従って

3層よりの採水が必要であり、殊にこの冬期は湾外では2m以上の波高があり、採水業務に難渋している現況である。船舶の航行安全と人命尊重の立場より更に大型船の導入が必要化されるものと検討されているところである。

職員宿舎も二子島の岬近くに現在建設中で、3月末までには落成の見込みである。全職員の志気高揚、団結の拠点として重要なものである。

### 4. 結び

最近の調査で、総水銀25ppm以上のヘドロは水俣湾で約150万m<sup>3</sup>に達するものといわれ、これが総水銀量の80%に当るといわれている。

環境を浄化し、住民の健康を保護するために、水俣湾の水銀ヘドロを浚渫し、昔の水俣湾にかえすことは緊急最重要なことである。しかし、一部住民及び反体制支援団体にはこの工事の二次公害を懸念する動きもあり、また工事が予定の通り順調に進行するとはばかりは思われない。

私は現地接渉のため最近現地をみる機会に恵まれたが、波静かな、白砂青松の、沖に恋路島というロマンチックな島影を望み、一見平和そのもののたたずまいである。こんな綺麗な静かな湾内に何があったかと疑いたくなるまでの景観である。

この世紀の公害防除の大事業に参加しうる機会に恵まれた当協会としては、公平・中立の立場を堅持して、誇りをもってこの事業の完遂に努めたい。(昭52.2)